

# 千判狸の呟き

狸が勤めていたA病院は、姉妹都市交流の一環として、毎年隣国R市からの医師を受け入れていた。ある年のことである。とても明朗な性格の医師（Sx医師とする）が、来秋した。病棟主催の歓迎会で、日本の酒はとても軽くて飲み易い。『我が国の酒に比べればジュースか水みたいなものだ』と豪語し、ハイピッチで盃を重ね、結果、3日酔いに苦しんだ豪傑であった。

彼が研修に慣れてきたある日の回診時に、狸の同僚医師が治療の制限など実情を説明したところ、不肖・毛慰勞狸に語りかけてきた。『日本の医療は社会主義だからね…』。確かに的を射た発言である。狸はR市を訪問した先輩Sx医師から、デモンストレーション手術を予定されていた患者が、手術を含む医療費を払えないとして、手術予定当日に退院していた、との話を聞いていた。そこで『貴方のお国の医療は資本主義だからね』と切り返した。お互い笑い話として、その場は和やかに話を終えた。

しかし、Sx医師の指摘したことが、国民皆保険で世界に冠たる医療システムを誇る日本のアキレス腱でもある。我々が日頃、性善説に従って患者に接し適切な医療を行ったとしても、医療担当規則により、医療行為は微に入り細に穿つ定価が規定されている。そのため保険診療を標榜する以上、医療価格を自由に設定は出来ない。

更に現在わが国は、ロシアや、中東の戦争など世界情勢の不穏による、燃料価格の高騰、歴史的円安による輸入物価の高騰、気候変動による食材不足などから、生活必需品及び運賃など軒並み物価が上昇し、国民生活は苦しくなる一方である。また、医療だけを見ると、通院費用を含む受診負担も大きくなってきた結果、患者の受診控えであろうか、患者数は減少傾向にあり、入院稼働率も低下してきている。各病院では、光熱費や食費等必需項目の支出割合が増え、医業収益は著しく低下してきた。それに追い討ちを掛けるのが、介護保険をはじめ各種税金と医療費負担の増加である。

最近の石破総理の施政方針を聞いて、肝を潰した。【楽しい日本】だと。彼の手本とする所は、戦後の石橋湛山首相であり、田中角栄総理らしい。彼が何故この文言を使ったのか理解に苦しむ。国民生活の安定した状態を表す＜鼓腹撃壤＞の四字熟語が有る

～ 日本の医療は社会主義だからね… ～

## 毛慰勞狸

が、それは皆が満足した状態である。現状とは真逆だ。不肖狸が斑ボケ頭で思うに、現状は果たして、江戸時代であれば一揆前夜・大正7年の『米騒動』の前夜とも言える状況である。更に我が国を取り巻く近隣諸国の状況は、第二次大戦前に似た不穏な状況にある。

こと医療に限定すれば、過疎化の進行により、二次医療圏の減少が図られていること。病院経営が今後益々困難になることが予想されること。その一方、皮肉にも道路整備が進んだことで、基幹病院だけ残す方向に進むのではないか。即ち、急速に病院の統廃合が進むことが予想される。病院ですらこのような状況であるが、診療所では開業医の高齢化、後継者不在による廃業が続いている。その反面、都市部では、地域医療に貢献するというお題目と現実乖離した開業が目立つ。即ち、医院はあくまでも営業の場であって、住宅は別であることが一般化しているようである。つまり従来の家庭環境まで把握した医療でなく、検査限定などコストパフォーマンスを重視した開業形態となっていないだろうか。それ故譬え地方であっても、人口の多い都市に医院が集中する傾向にある。結果、移動手段を持たない過疎化地域の住人・主に老人は、益々医療から取り残される。その一方、国は在宅医療を進めたいようだが、そもそも老々家庭または単居が多いのだから、それは一部の者でしか可能ではない。老人は自立困難になれば、施設を利用するしかない。だが、そこにもスタッフ不足という難問が控えている。八方塞がりである。

世界に冠たる日本の国民皆保険下の医療を残すためには、医療が公定価格であることを堅持するとしても、人件費をはじめとする必要最低限の経費保証は、何らかの手段を講じないと、国民の健康を守るという国家としての基本的な安全保障が保たれない。国庫として税収を確保することに汲々とし、その一方で外国へのODAなどの支援を気前良く行うなどは論外である。そのような資金の一部でも、医療スタッフ確保のため回すべきではないだろうか。医療が、社会主義的に運営されているのだから。